

「富山の自然を活かせる建築家になりたい」

小学生の部・Kさんの短期入門の様子です。

(Kさんからの報告書をもとに再構成しています)

入門先：富山大学芸術文化学部建築デザインコース 准教授 横山天心先生

期 日：令和元年8月20日（火）

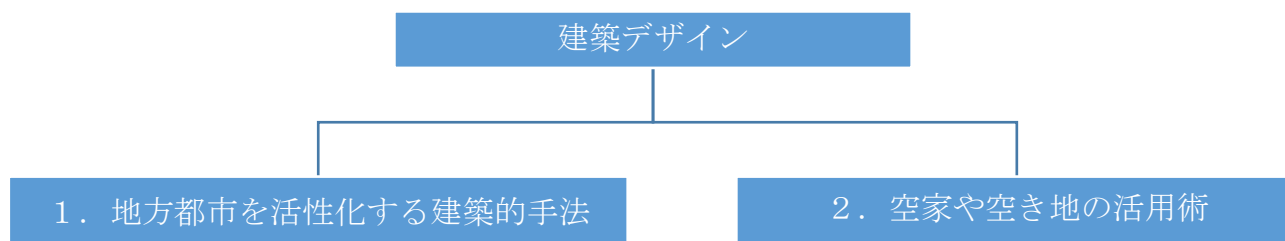
入門の流れ

- 9:00 横山先生から「建築デザインと建設技術の関係性」についての講義・・・(1)
- 10:00 金屋町の家（さまのこハウス）を見学（高岡市）・・・(2)
- 11:15 木津の庄コミュニティセンターを見学（高岡市）・・・(3)
- 13:30 八尾の家で千本格子（さまのこ）を使う影絵の設計にチャレンジ・・・(4)
- 15:00 終了



(1) 「建築デザインと建設技術の関係性」についての講義

教えてもらったのは、主に2つです。



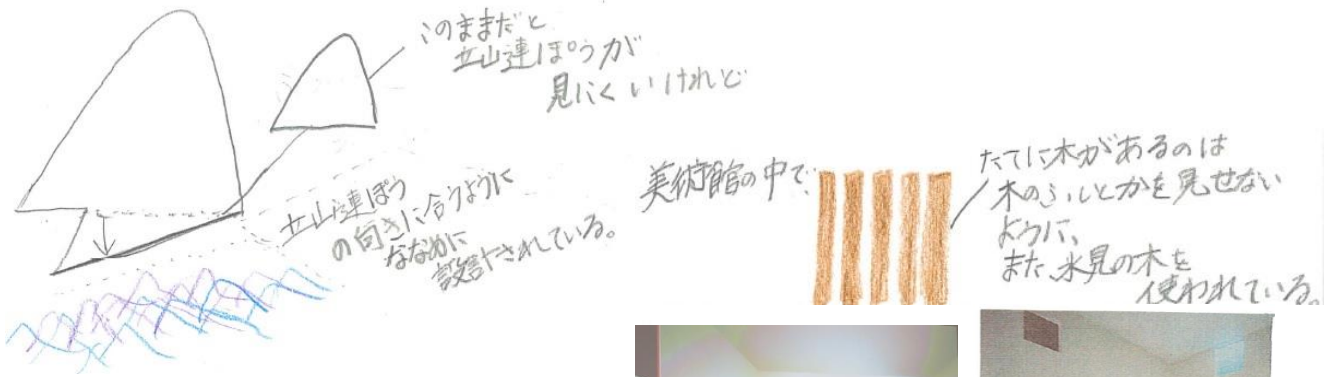
1. の地方都市を活性化する建築的手法について

・デザインとは・・・

{ その場所の良さ
町並み
その場所の材料 } を活かす

人に合ったデザインとは ← 条件：バリアフリー、子どもがいる、など

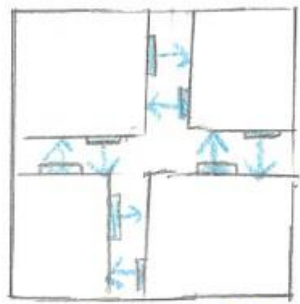
例えば、富山県美術館だと



実際に先生が設計した家についてもお話しをお聞きしました。



建てたい人の 願い	解決策
明るく、	→ 屋根や階段の工夫。ガラスで光を通す
暖かく、	→ 土壌蓄熱式床暖房。土の熱を利用して1階全体が暖かく！
プライバシーを確保しつつ、	→ 4つある部屋の、それぞれのドア・窓の位置をずらすことで直接相手が見えず、プライバシーを確保できる。
どこにいても家族の雰囲気	→ プライバシーを確保しながらも、4つの部屋の壁に色々な形の穴を空けることで、声が伝わり、家族の雰囲気を共有できる。



ガラス！ ガラスを使って光を中に取り込む。



特に階段をガラスにする所が想像もしなかった。ガラスは光を通すだけでなく、見た目もオシャレ！

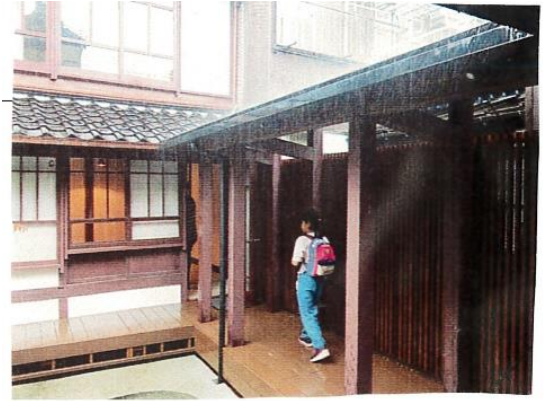
2. 空家や空き地の活用術について

高岡市には伝統的な街、金屋町がある。そこで、横山先生と大学生で設計して空き家を改造した「さまのこハウス」を見に行きました。

※千本格子＝さまのこ

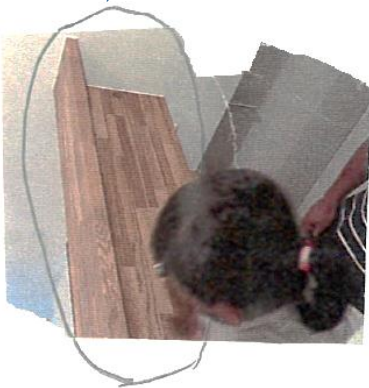
(2) 金屋町の家（さまのこハウス）を見学

いざ！金屋町のさまのこハウスへ！



(左)母屋はあまり変えず、きれいにした、(右)通りから見て後ろの家は、現代風に

➡ 昔と現代の家がつながっているようなすてきな空間



← このスペースは、何もなくてさびしかったので、イスを作ったそうです。空間を自由に使っていてビックリしました!!

(右)昔ながらの畳が安心！すごく落ち着く空間になっていました!!

一番感動したのは中庭です。

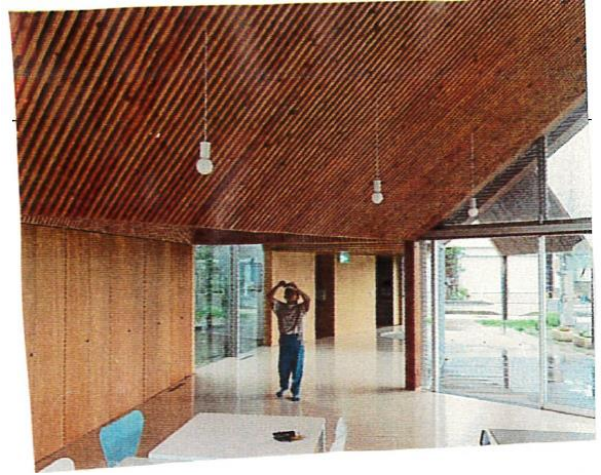


昔と現代をつなぐ空間。休むところもあって、のんびりできるような場所でした。

(3) 木津の庄コミュニティセンターを

見学

先生が設計した木津の庄コミュニティセンターと公園



1番の見どころは



でこぼこで高低差のある屋根です。

どうして高低差があるか聞くと・・・

人それぞれに好みの「場」がある。高いところが好きな人、低いところが好きな人、いろいろな人にとって合う「場」を作ってもらえるように高低差をつけたそうです。

また、目の前の公園で遊んでいる子どもも見守れて、親も安心できるスペースです。

特別に2階も見せていただきました。

屋根が木の幹のようにつながっていてすてきでした。

屋根の木のイメージは、千本格子です。

(4) 八尾の家で千本格子（さまのこ）を使う影絵の設計にチャレンジ

午後は、横山先生が関わっておられる「坂の街アート in やつお 2019」で、八尾の千本格子の空き家の中から影絵を映し出す「あかりアート」のための下絵を一生懸命描かせていただきました。

私が描いた絵は、大学生が手直しして実際に使われるのだそうです。



秋に飾られるということで、秋のものにしました。

「もみじ」と「いちょう」です！

おわら節を踊る人をイメージしてモミジやいちょうの葉っぱと組み合わせました。

大学生の方がどんな風に仕上げてくださいるのか楽しみです。

感想

私は、今回建築を学んで、知らないことをたくさん知れました。今までよりもっと建築の勉強をしたいと思います。また、このような機会を与えてもらったおかげで、建築がとっても好きになりました。

ありがとうございました。

